

公益財団法人 檜の芽会 御中

令和 7 年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施報告書

【団体の概要】		① 作成日	令和 8 年 5 月 30 日
② 法人・団体名	特定非営利活動法人 BORDER FREE		
③ 団体所在地 (都道府県・市町村名まで)	東京都多摩市鶴牧三丁目 2 番地 ブリリア多摩センター 1 4 1 6		
③ 責任者氏名	小島 慶久	(役職名等)	理事長
④ 担当者氏名	佐藤 謙成	(役職名等)	栃木ベース責任者

【奨学活動の概要】					
⑥ 助成交付決定番号	R07-035	⑦ 助成金額	46 万円	⑧ 申請カテゴリ	C
⑨ 奨学活動名	中学生・高校生を対象とした集団授業及び勉強会の継続的事業				
⑩ 主な実施場所名・及びその住所	YMCA EAST 〒321-0904 栃木県宇都宮市陽東 4-18-30				

⑪ 活動内容とその成果の概要（詳細は【様式 3 - 2】又は別添資料にて記載・説明ください。）

本事業では、学習支援を行う学生団体として、栃木県宇都宮市において新たな学習支援教室を設立・運営しました。教育格差の是正を目的とし、地域の児童・生徒に対して継続的な学習機会の提供を行いました。生徒募集および認知度向上に課題があったため、教育委員会や地域団体からの後援を得るとともに、学校を通じたチラシ配布やメディアを活用した広報活動を実施しました。

その結果、開校 1 年で生徒数は 8 名に到達しました。加えて、継続的な学習支援により、参加生徒の学習習慣の定着が見られたほか、志望校への合格者も輩出するなど、具体的な成果につながりました。また、様々な背景を持つ生徒に対して安定した学習環境を提供する体制を構築することができました。

⑫ 奨学活動の定量的把握（注：統計情報として参考まで把握するものです。活動成果等は上段⑪及び様式 3 - 2 等でご報告願います。）

支援対象	延べ人数 (A : 人)	平均時間 (B : 時間)	活動量 (A x B)	備考・補足・計算根拠等
中学生等				
高校生等	189	2	378	一回の授業が二時間で、平均して一人月 3 回参加想定で、9 か月間繰り返した場合の計算
大学生等	9	2	18	一回の授業が二時間で、平均して一人月 1 回参加想定で、9 か月間繰り返した場合の計算
学習支援員等	54	2	108	一回の授業が二時間で、平均して一人月 3 回参加想定で、9 か月間繰り返した場合の計算
その他				
合 計			504	

⑬ その他の定量的な数値（任意）

令和 7 年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施詳細報告書

奨学活動名：中学生・高校生を対象とした集団授業及び勉強会の継続的事業

法人・団体名：特定非営利活動法人 BORDER FREE

作成者 氏名：佐藤 謙成

1. 取り組んだ課題や実践した目的・実施内容について

本事業では、家庭環境や地域差等により十分な学習機会を得られない児童・生徒に対して、継続的かつ個別最適化された学習支援を提供することを目的として実施しました。

教室では、生徒一人ひとりの学力や目標に応じた個別指導を中心に、基礎学力の定着から応用力の向上まで段階的な支援を行いました。具体的には、学校の授業内容の補習や定期テスト対策、受験対策に加え、学習計画の作成や進捗管理を通じて、自主的に学習に取り組む力の育成を重視しました。

また、単なる学力向上にとどまらず、安心して学習できる居場所の提供にも注力し、生徒との対話を通じたモチベーション維持や、学習習慣の定着を支援しました。これにより、継続的に通室できる環境を整備し、学習機会の格差是正に寄与する取組を実施しました。

2. 実施した奨学活動の詳細

・活動内容の詳細（写真や図表を用いてご説明ください。）

本事業では、地域の児童・生徒を対象とした学習支援教室を開設し、継続的な学習機会の提供を行いました。教室では、生徒一人ひとりの学力や理解度に応じた個別指導を中心に実施し、学校の授業内容の補習、定期テスト対策、受験対策等を行いました。

また、生徒との対話を重視し、学習に対する不安や課題に寄り添いながら指導を行うことで、安心して学習に取り組める環境づくりに努めました。あわせて、継続的に通室できる雰囲気づくりを行い、学習習慣の定着につながるよう支援しました。



図 1 教室の様子

・参加人数

開校 1 年以内に、生徒数は 8 名に到達しました。

加えて、ボランティアとして 12 名が学習支援員として活動に参加しました。

- ・周知方法や協力いただいた関係者

教室の周知にあたっては、教育委員会および地域団体からの後援を受け、学校を通じたチラシ配布を実施しました。また、メディアを活用した広報活動も行い、下野新聞社様に二回ほど掲載していただきました。

- ・地域やボランティア活動との連携

地域団体や教育関係機関と連携しながら活動を実施しました。特に、宇都宮市若年者支援機構をはじめとする地域団体との打ち合わせや、各種活動への参加を通じて、団体間の横のつながりの強化を図りました。

これにより、地域における支援に関する情報共有や相互理解が進み、単独の取組にとどまらない、連携を活かした支援体制の構築につながりました。また、学生ボランティアが主体となって教室運営および学習支援を行い、地域に根ざした継続的な支援の実現を目指しました。

- ・学習支援員について

学習支援員は主に高校生、大学生を中心としたボランティアで構成されており、生徒一人ひとりに寄り添った指導を行いました。定期的に情報共有や指導方針の確認を行い、指導の質の向上および支援内容の統一を図りました。

- ・購入した機材・物品の写真（助成表示用シールの貼付）

3. 本活動から得られたもの、反省点、課題、今後への発展性、等

本活動を通じて、地域における学習支援のニーズの高さを実感するとともに、継続的な学習機会と安心して通える居場所を提供することの重要性を確認することができました。また、地域団体との連携を通じて、単独の取組では得られない情報共有や支援の広がりが生まれ、地域に根ざした活動の基盤を構築することができました。

一方で、運営面においては、参加生徒数や支援体制の拡充に向けた継続的な取組が必要であることが課題として挙げられます。また、学習支援員の確保や指導の質の維持・向上についても、今後さらに体制整備を進めていく必要があります。

今後は、地域団体との連携を一層強化しながら、活動の継続性と安定性を高めるとともに、より多くの児童・生徒に支援を届けられる体制の構築を目指します。また、支援内容の充実や運営体制の改善を図ることで、地域における学習支援の拠点としての役割を発展させていきます。

4. 本活動におけるエピソード、思い、感想、等（任意）

本活動を実施するにあたり、ご支援を賜りましたことに心より感謝申し上げます。本助成があったことで、教室の立ち上げおよび運営に必要な環境を整備することができ、地域の児童・生徒に対して継続的な学習機会を提供することが可能となりました。

活動の中では、当初は学習に対して不安や苦手意識を持っていた生徒が、継続して通う中で徐々に自信を持ち、前向きに学習に取り組む姿が見られるようになったことが特に印象に残っています。加えて、教室に通うまでは高校受験を具体的に考えていなかった生徒が、学習を重ねる中で進路について主体的に考えるようになり、受験を決意し、最終的に志望校に合格した事例もありました。

また、不登校でこれまで学習機会が十分に確保されていなかった生徒についても、教室への参加をきっかけに継続的に通室するようになり、日常的な学習習慣が定着するなどの変化が見られました。このように、多様な背景を持つ生徒に対して、それぞれに応じた支援を行うことの重要性を実感しました。以上のような生徒の変化や成長を間近で感じることができ、本活動の意義を強く実感しました。また、地域団体やボランティアの方々との関わりを通じて、多くの方に支えられながら活動が成り立っていることを改めて認識しました。本活動を通じて得られた経験やつながり大切に、今後も地域に貢献できる取組を継続していきたいと考えております。

5. 学識者からのご意見、コメント、等（申請カテゴリにて「S」が付されている団体）